



ハクガン *Anser caerulescens* の香川県及び愛媛県初記録

岩田篤志^{1,*}・榎原一美²・加藤雄也³・吉岡宏之⁴・瀧野隆志⁴・松田久司⁴

1. 香川の野鳥を守る会 〒761-2305 香川県綾歌郡綾川町滝宮 2172-8

2. 〒761-0901 さぬき市大川町富田西 2355-1

3. 一般社団法人ノヤマカンパニー 〒797-0013 愛媛県西予市宇和町稲生 237-1

4. 日本野鳥の会愛媛 〒791-8017 愛媛県松山市西長戸町 353-5 日本野鳥の会愛媛事務局

はじめに

ハクガン *Anser caerulescens* (亜種ハクガン *A. c. caerulescens*) は明治初期には東京湾に大群で渡来していたが(日本鳥学会 2024)、現在は数少ない冬鳥として渡来する(真木ほか 2014)。四国への渡来記録は、2019 年 12 月までの記録を対象範囲とした日本鳥学会(2024)には掲載されておらず、2022 年 12 月 12 日～2023 年 4 月 21 日に高知県宿毛市小筑紫町福良で若鳥 1 羽が越冬した記録(日本野鳥の会高知支部 2023a, 2023b)が四国初であり、また、四国における唯一の記録であった。

今回、2025 年 11 月に香川県さぬき市及び愛媛県西予市において、ハクガン成鳥 1 羽が観察された。これらは香川県及び愛媛県における初記録であり、四国では 2・3 例目の記録となる。加えて、香川県と愛媛県でほぼ連続して観察されており、同一個体である可能性があることから、本稿であわせて報告する。

観察日時、観査地及び状況

香川県での記録

香川県で確認された個体(以下「香川県個体」という)は、2025 年 11 月 20 日 17 時頃、香川県さぬき市寒川町石田東甲 2044 付近(34°15' N, 134°13' E, 標高約 45 m)において著者のうち榎原一美が発見し、11 月 21 日、22

日も 17 時頃に同場所で観察した。23 日以降は観察されなかった。

観察地は収穫後に耕起された田であり、イネ *Oryza sativa* の二番穂が実り散在していた。周囲には田が連なり、約 70 m 南西に無人の神社が、さらにその約 60 m 南西に最も近い人家がある。約 300 m 北には片側 2 車線の県道が東西方向に伸びている。交通量が多いが、観察地は県道から約 10 m 高い位置にあるため県道からは視認できない。周囲に大きな河川はなく、北側約 400m と南東約 300 m にため池が存在する。なお、沿岸部からは約 4.6 km 離れている。

香川県個体については、約 20 m の距離から、スマートフォンで 2 枚(図 1, 2)の写真と 2 本の動画(撮影時間は約 4 秒と約 39 秒)を撮影した。写真等によると、頭は丸く、眼は小さく黒色であった。嘴は短く、横から見ると基部が太くて先端が細い三角形に見えた。嘴の色は定かではない。頸は長くてやや太かった。胴体は大きくボリュームがあった。脚は体のやや前方につき、静止時及び歩行時には胸を張ってやや尾部を下げる姿勢を示していた。全身は白く、豊んだ初列風切のみ黒色であった。尾羽は白色で、初列風切と同長程度であった。脚部は腿が白い羽毛に覆われていた。ふ蹠や趾といった露出部は耕起された土に隠れて詳細には確認できなかったが、足環は装着されていなかった。周

2026 年 2 月 18 日受理

キーワード: ハクガン, *Anser caerulescens*, 初記録, 香川県, 愛媛県

*: kogera2002@gmail.com

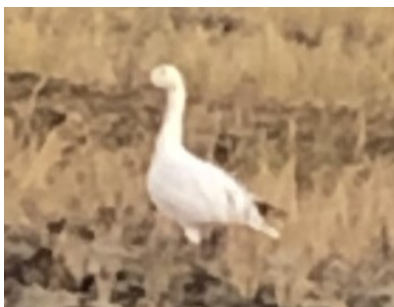


図 1. 香川県さぬき市で観察されたハクガン。(2025 年 11 月 22 日. 撮影: 桒原一美)

Fig. 1. Snow Goose observed in Sanuki City, Kagawa Prefecture on 22 November 2025. (Photograph by K. Kashiwara.)



図 2. 香川県さぬき市で観察されたハクガン. 初列風切は黒い。(2025 年 11 月 22 日. 撮影: 桒原一美)

Fig. 2. Snow Goose observed in Sanuki City, Kagawa Prefecture on 22 November 2025. The primaries are black. (Photograph by K. Kashiwara.)

囲に他種の鳥類はいなかったため比較対象がなく、大きさは定かではないが、撮影距離と被写体の大きさを踏まえると、カモ類よりは大型であった。

11 月 20 日及び 21 日は田の中に座り込み、隣接する道路を歩いても逃げることなく、その姿勢のまま目の前の地面に嘴を差し込み採餌するようなしぐさをしていた。22 日にはゆっくり歩きながら採餌していた。

愛媛県での記録

愛媛県で確認された個体(以下「愛媛県個体」という)は、2025 年 11 月 25 日 11 時頃、愛媛県西予市宇和町西山田付近の田(33° 23' N, 132° 28' E, 標高約 215 m, 以下「a」という)において著者のうち加藤雄也が発見した。そして 15 時 30 分頃～17 時 30 分頃までは約 1,080 m 南東の田(33° 22' N, 132° 29' E, 標高約 214m, 以下「b」という)に移動しているのを著者のうち吉岡宏之と松田久司が観察した。26 日には、午前小川次郎氏が b の隣

のため池の水面に降りるのを観察し、16 時頃に再び b で著者のうち吉岡と瀧野隆志が観察、17 時頃に吉岡が a と b のほぼ中間点の田(33° 22' N, 132° 28' E, 標高約 215 m, 以下「c」という)で観察した。さらに 27 日には b で、28 日には c で観察した。29 日以降は観察されなかった。

観察地は愛媛県西部の西予市に位置し、肱川の上流に形成された宇和盆地の田とため池である。観察地のうち、最も西側に位置する a でも沿岸部からは約 5.2 km 離れている。観察された田はいずれも 1 回耕起されていた。

愛媛県個体については、加藤雄也が約 830 m の距離からフィールドスコープ KOWA TSN-774 に 60 倍の接眼レンズをセットしスマートフォンで写真及び動画を、吉岡宏之が約 120 m の距離から 100-400 mm レンズを付けた一眼レフカメラ(OM SYSTEM OM-1)で写真を撮、瀧野隆志が約 150 m の距離から 600 mm レンズを付けた一眼レフカメラ(Nikon Z9)で地上時と(図 3)と飛翔時の写真(図 4)を、小川



図 3. 愛媛県西予市で観察されたハクガン。(2025 年 11 月 26 日. 撮影：瀧野隆志)

Fig. 3. Snow Goose observed in Seiyō City, Ehime Prefecture, on 26 November 2025. (Photograph by T. Takino.)



図 4. 愛媛県西予市で観察された飛翔時のハクガン。初列風切は黒い。(2025 年 11 月 26 日. 撮影：瀧野隆志)

Fig. 4. Snow Goose in flight observed in Seiyō City, Ehime Prefecture on 26 November 2025. The primaries are black. (Photograph by T. Takino.)



図 5. 愛媛県西予市で観察された水上のハクガン。(2025 年 11 月 26 日. 撮影：小川次郎氏)

Fig. 5. Snow Goose on the water observed in Seiyō City, Ehime Prefecture on 26 November 2025. (Photograph by J. Ogawa.)

次郎氏が約 40 m の距離からコンパクトデジタルカメラ (Canon PowerShot SX720 HS) でため池に浮いている写真 (図 5) を撮影した。観察や写真によると、体の大部分は白く、首上部には縞に見える模様があった。嘴はピンク色で光沢はなく、会合線は黒い。嘴は短く、横から見ると基部が太くて先端が細い三角形に見え、先端上部に白く半透明な部分があった。腿から踵までは白い羽毛があり、踵から先には羽毛は無くピンク色である。足環は装着されていなかった。三列風切近くの大羽覆は長かった (図 3)。また、飛翔時に初列風切が黒く、初列羽覆の先

端側の 6 枚ほどが灰色で内側 3 枚は白いこと (図 4)、尾羽は白いことを確認した。なお、頭部は田で落穂を食べているためか日が進むにつれてやや茶色く汚れたようになっていった。大きさについては、加藤雄也及び吉岡宏之が地上で採餌する愛媛県個体の近くでハシボソガラス *Corvus corone* と思われる個体 1 羽を、小川次郎氏が水面に浮かぶ愛媛県個体の近くでカルガモ *Anas zonorhyncha* 2 羽を観察・撮影しており、愛媛県個体はこれらハシボソガラスと思われる個体やカルガモよりも明らかに大きかった。

田では地面をつつく様子が観察されたことか

ら、落穂を食べていたと思われた。同時に観察されたハシボソガラスと思われる個体からは追われていたが、カルガモとは積極的に共に行動したり、争ったりする様子は見られなかった。

種の同定等

香川県個体及び愛媛県個体（以下「両個体」という）は、いずれも短い嘴やボリュームのある体といった形態、静止時や歩行時の姿勢からカモ科の鳥類であり、大型で頸が長く、全身が白色といった形態的特徴が類似する種は、カモハクチョウ *Coscoroba coscoroba* の成鳥、シロコバシガン *Chloephaga hybrida* の基亜種 *C. h. hybrida* のオス成鳥、ヒメハクガン *Anser rossii*（白色型）の成鳥、ハクガン（白色型）の成鳥である (Steve & Hilary 1988)。なお、本稿における鳥類の和名のうち、日本鳥学会（2024）に掲載されていない種については山階（1986）に準拠した。

このうち、カモハクチョウは全身が白色で初列風切のみ黒色、嘴はカモに類似した形状であり鮮やかで蠟のような赤色 (brilliant waxy-red bill)、虹彩は黄色から赤味を帯びた橙色である (Steve & Hilary 1988)。両個体は羽色がカモハクチョウと一致するが、嘴の形状と、鮮やかで蠟のような赤色でもないことが異なった。シロコバシガンは、嘴が黒色であること、初列風切が白色であることが両個体とは異なった。

ヒメハクガン（白色型）成鳥とハクガン（白色型）成鳥は、体全体が白色で初列風切のみ黒色であることが両個体と一致した。このうち、ヒメハクガンはハクガンに類似するが、ハクガンより小型で嘴は小さく、頭は小さく丸みを帯び、首はより短くて太く、体は比較的短くてずんぐりしている (Steve & Hilary 1988)。両個体は首が長く、体も長いこと、嘴の大きさがヒメハクガンとは異なった。なお、ヒメハクガン

は国内の動物園でも飼育されていなかった（日本動物園水族館協会 a オンライン¹⁾）。以上のことから、両個体はハクガン成鳥であると同定した。ハクガンは雌雄同色であるため性別は不明である。

ハクガンは亜種ハクガン *A. c. caerulescens* と亜種オオハクガン *A. c. atlanticus* の 2 亜種に分類される。亜種オオハクガンはバフィン湾やグリーンランド北西部といった北アメリカ大陸北東部で繁殖し、亜種ハクガンより大型で、嘴も太い点で異なる (Steve & Hilary 1988)。今回、両個体では詳細な大きさは把握できなかった。しかし、その嘴の長さや太さは亜種ハクガンと同じ程度であり、亜種オオハクガンを疑わせるような長さや太さは見られなかったことから、両個体は亜種ハクガンと考えられた。

考察

形態的特徴からは同一個体であるかの検討はできなかったが、両個体は同一個体である可能性が有る。

まず、両個体に観察期間の重複はない。香川県個体は 20 日に発見された。20 日・21 日には座り込んだ姿勢のまま、隣接する道路を歩いても逃げることなかったため、負傷または衰弱していた可能性が有る。ただし日中には見当たらなかったことから、飛翔して移動はできていた。22 日 17 時頃には歩いて採餌しており、動画でも歩行状況に不自然な点はない。衰弱していたとしても、前日より回復したと思われる。23 日は午後 3 時 30 分頃から午後 5 時 30 分頃まで待機したが飛来せず、観察地周辺でも確認できず、羽毛などの捕食痕も見当たらなかった。以降も確認されていないことから、香川県個体は 22 日の観察以降に飛去したと考えられる。そして愛媛県個体は 11 月 25 日の午前 11 時に発見されている。

また、香川県個体の観察地から愛媛県個体の観察地までは約 190 km 離れているが、23・24 日の 2 日をかけて香川県から愛媛県に移動することは十分に可能と考えられる。マガン *A. albifrons* では、人工衛星用位置送信機を用いた追跡により、春期の渡りにおいて 10 時間に 995 km を一気に移動し、その平均速度は 99.5 km/h であったことや、約 2.5 日で 2,048 km の渡りを行った事例が知られている（呉地ら 1995）。渡りと越冬期の移動とは気候条件等が異なるため単純に同一視はできないものの、ハクガンも 2 日で約 190 km を移動する能力は十分あると考える。

なお、ハクガンは動物園で飼育されているが、両個体は野生個体であると考えられる。まず、両個体とも足環は装着されていなかった。また、香川県個体の観察地から最も近隣のしろとり動物園（香川県東かがわ市）に照会し、ハクガンの飼育実績はないとの回答を得ている。さらに、国内では旭山動物園（北海道旭川市）、八木山動物公園（宮城県仙台市）、多摩動物公園（東京都日野市）、弥生こいの広場（青森県弘前市）の 4 施設がハクガンを飼育しているが（日本動物園水族館協会 b オンライン²⁾）、これらの施設からも逸出無しとの回答を得ている。

本件記録は偶発的な渡来だが、四国地方への渡来が続いたり、新たな未記録地へ渡来したりしないか、今後より注意する必要があるだろう。ハクガンのうち、東アジアで繁殖・越冬する個体群は 1800 年代初頭から激減した。国内でも同様であり、1971/72 年の越冬期以降の国内の渡来状況を調査した結果、1971/72 年から 1992/3 年の越冬期までの間、国内での越冬期の記録数は各年 0～2 羽だった（Sabano *et al.* 2024）。このような中、1993 年の夏季に、アジアにおける唯一の集団繁殖地であるウランゲル島の繁殖群の分散と東アジアにおける越冬群

の復元を目的として、ウランゲル島の繁殖群からハクガンの卵を採取して日本に渡るマガンの繁殖地に移送する復元計画が実施された（佐場野 2013）。その結果、復元計画において標識された個体が 1995/96 年から 1998/99 年までの 4 シーズンにわたって石川県片野鴨池で観察された。また国内での越冬数も、2003/04 年には 10 羽、2012/13 年には 100 羽、2019/20 年には 1,000 羽を超え、2023/2024 年の越冬期には 1,777 羽が記録された。世界のハクガンの個体数も 1970 年代から 2015 年にかけて増加傾向にあり、国内の状況が復元計画の直接的な結果であるかは不明である（Sabano *et al.* 2024）が、本件記録はこうした状況下での未記録地への渡来事例として重要である。

謝辞

本報告をまとめるにあたり、高知県の記録を提供していただいた日本野鳥の会高知支部の谷岡仁氏、愛媛県での観察情報や写真を提供していただいた日本野鳥の会愛媛の小川次郎氏、さらにご指摘をいただいた匿名の査読者のおふたりに厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 呉地正行・佐場野裕・岩渕成紀・Syroechkovsky, E.・Baranyuk, V. V.・Andreev, A.・Kondratyev, A.・Takekawa, J. Y.・三田長久. 1995. 小型位置送信機を使用したハクガン個体群の北東アジアへの復元に関する調査研究. 電気通信普及財団研究調査報告書(9): 518-541.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版日本の野鳥650. 平凡社, 東京.
- 日本鳥学会. 2024. 日本鳥類目録 改訂第8版. 日本鳥学会, 東京.
- 日本野鳥の会高知支部. 2023a. 野鳥情報. 日本野鳥の会高知支部報 しろぺん 2023年2月号(431): 10.
- 日本野鳥の会高知支部. 2023b. 野鳥情報. 日本野鳥の会高知支部報 しろぺん 2023年6月号(435): 7.

- 佐場野裕. 2013. ハクガン. バードリサーチニュース 2013年3月号 10(3): 4-5.
- Sabano, Y., Sawa, Y., Uemura, S. & Kurechi, M. 2024. Population trends and distribution of the Lesser Snow Goose *Anser caerulescens* in Japan, based on 50 years of monitoring. *Wildfowl* (74): 69-83.
- Steve, M. & Hilary, B. 1988. *WILDFOWL An identification guide to the ducks, geese and swans of the world*. Christopher Helm, London.
- 山階芳麿. 1986. 世界鳥類和名辞典. 株式会社大学書林, 東京.

オンラインドキュメント

- *1) 日本動物園水族館協会a. 飼育動物検索(「ヒメハクガン」及び「*Anser rossii*」で検索). <<https://www.jaza.jp/animal>>. 参照 2025年12月1日.
- *2) 日本動物園水族館協会b. 飼育動物検索(「ハクガン」及び「*Anser caerulescens*」で検索). <<https://www.jaza.jp/animal>>. 参照 2025年12月1日.

The first record of Snow Goose *Anser caerulescens* in Kagawa and Ehime Prefectures, Japan

Atsushi Iwata^{1,*}, Kazumi Kashiwara², Yuya Kato³, Hiroyuki Yoshioka⁴,
Takashi Takino⁴, & Hisashi Matsuda⁴

1. Takinomiya 2172-8, Ayagawa-cho, Ayauta-gun, Kagawa, 761-2305, Japan
2. Tomidanishi 2355-1, Ookawa-cho, Sanuki-shi, Kagawa, 761-0901, Japan
3. General Incorporated Association Noyama Company. Inou 237-1, Uwa-cho, Seiyō-shi, Ehime, 797-0013, Japan
4. Ehime Branch of the Wild Bird Society of Japan. Secretariat, 353-5, Nishinagato-cho, Matsuyama-shi, Ehime, 791-8017, Japan

We observed a Snow Goose *Anser caerulescens* in Sanuki City, Kagawa Prefecture and Seiyō City, Ehime Prefecture, in November 2025. These are the first records of this species in both Kagawa and Ehime Prefectures. Because the observations were made within a short time interval, the birds may have been the same individual.

Keywords: Snow Goose, *Anser caerulescens*, first record, Kagawa Prefecture, Ehime Prefecture

*: kogera2002@gmail.com